

小林さん(弘大)南極へ

第60次観測隊 上空の微生物調査



政府の南極地域観測統合推進本部は22日、11月に出發する第60次観測隊の実施計画や隊員を決めた。弘前

大学理工学研究科教授の小林史尚さん(49)が隊員として初めて参加し、南極上空を浮遊する微生物の観測

第60次南極地域観測隊の隊員に決まった小林さん

調査に臨む。

小林さんが研究するのは、大気に含まれるバイオエアロゾル(生物粒子)。金沢大学准教授だった2012年、同行者として第54次観測隊に参加し、係留気球を使って高度千メートルの浮遊微生物を採集するなどした。

今回は、他の研究者ら4人とともに、昭和基地から20キロほど離れた航空機観測拠点に滞在予定。無人機を使って、より高度が高く、地表の影響を受けにくい自由対流圏の大気バイオエア

ロゾルを調査する。

「大陸間を移動する微生物の存在を証明し、生態系への影響を明らかにしたい」と小林さん。南極での観測データは貴重で、気象学や生物学、医学などへの発展も期待されるという。「生きた状態の微生物を採集したい。南極という過酷な環境で観測できれば、弘前での観測にも応用できるはずだ」とも語る。

第60次観測隊は11月下旬に空路で出発、オーストラリアで南極観測船「しらせ」に乗り込み、昭和基地へ向かう。隊員は、既に隊長に決まっていた堤雅基・国立極地研究所教授(51)と、副

隊長の原田尚美・海洋研究開発機構地球環境観測研究開発センター長代理(51)。

弘大理学部卒119人。今後追加し、71人編成となる。(太田佳希)

※この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。

東奥日報社に無断で転載することを禁止します。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科

E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp